

水稲・斑点米カメムシの防除



アカスジカスミカメ

近年、斑点米カメムシ類の発生が増加しています。斑点米カメムシ類は登熟期のもみを吸汁し、米の品質を低下させ、等級下げの原因になります。的確な防除を確実に行いましょう。

**大阪府環境農林水産部農政室推進課
病害虫防除グループ**

斑点米カメムシ類による被害

斑点米は、斑点米カメムシ類が登熟期の水稻のもみに口針を突き刺し、吸汁加害することにより発生します。

斑点米の黒変部は、カメムシの吸汁で生じた傷口から細菌類・カビ類が侵入したことから変色したものです。

吸汁部位、カメムシの種類、吸汁時期により様々な斑点米が発生します。

乳熟期前に吸汁されると未熟米になり収量が減少します。

側部斑紋状粒



頂部黒変粒



側部しみ状粒



玄米側面中央に吸汁痕、白い円の外側に黒色の縁取りができます。斑点米カメムシ類が乳熟期以後にもみを吸汁すると発生します。

カスミカメ類が乳熟中期にもみの頂部を吸汁すると発生します。

カスミカメ類が乳熟後期にもみの鈎合部(穎と穎の間)を吸汁すると発生します。

(参考)

大阪府での中生品種(ヒノヒカリ)の生育期

8月		9月			10月			
25	30	5	10	15	20	25	30	5日
出穂	穂	乳		糊	黄	完		収
穂	揃	熟		熟	熟	熟		穫
期	期	期		期	期	期		期

生育期間によって斑点米カメムシは水田内にいたりいなかったりします。的確な防除時期把握が重要です。



クモヘリカメムシ

斑点米カメムシ類の種類

本府では近年、斑点米カメムシ類の中でもアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等小型カスミカメ類の被害が多くなっています。

アカスジカスミカメ



体長5～6mm。背中に一本の赤い線が入る。触角、後足も赤い。年4～5世代を繰り返す。

アカヒゲホソミドリカスミカメ



体長5～6mm。体は細長く、淡緑色。触角が赤い。年4～5世代を繰り返す。

ホソハリカメムシ



体長9～11mm。黄褐色。肩の部分が鋭くとがる。年2世代を繰り返す。

クモヘリカメムシ



体長15～17mm。年2世代を繰り返す。

トゲシラホシカメムシ



体長5～7mm。肩の部分がとがる。年2世代を繰り返す。

斑点米カメムシ類の発生消長

アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等の小型のカスミカメムシ類は卵で越冬し、

トゲシラホシカメムシ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシなどの中大型カメムシ類は成虫で越冬します。

春になるとふ化したり冬眠を終えて活動を始め、畦畔雑草に移動し、水稻の出穂とともに水田に移動し、粃を吸汁します。

アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等

卵越冬→畦畔→水田

トゲシラホシカメムシ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等

成虫越冬→畦畔→水田

斑点米カメムシ類の多発要因

- ・ 暖冬による越冬量の増加

暖冬により、斑点米カメムシ類の越冬量や卵の生存率が増加します。

- ・ 夏の高温少雨による発生量の増加

夏の高温少雨により、斑点米カメムシ類の発生量が増加します。

- ・ 休耕田など生息地の増加

休耕田など斑点米カメムシ類の生息地が増加しています。



だいず畑のクモヘリカメムシ



イネ科雑草に潜む
アカヒゲホソミドリカスミカメ

斑点米カメムシ類の防除

・ 出穂 2 週間前に畦畔の草刈りを行う

斑点米カメムシ類は水稻出穂前は畦畔イネ科雑草に生息し、出穂とともに水田に移動します。

出穂 2 週間前に草刈りを行い、斑点米カメムシ類の生息地をなくしましょう。

逆に、出穂後に草刈りを行うと斑点米カメムシ類が水田に移動してしまいます。

出穂前10日～出穂後は草刈りを行わないようにしましょう。

また、水田内の雑草は斑点米カメムシ類を水田内に誘導します。水田内の雑草は直ちに除去しましょう。

・ 穂揃い期（出穂すべき穂のうち 8 ～ 9 割が出穂している時期、出穂期 2 ～ 3 日後）に薬剤散布を行う

・ イネカメムシは他のカメムシより侵入が早いので多発時は不稔対策に出穂期の防除が必要

・ 発生が多い場合、10日後にもう一度防除を行う。

斑点米カメムシ類防除薬剤（例）

（令和6年7月現在）

剤型	農薬名	使用時期	成分数	有効成分（IRACコード）
粒剤	スタークル(アルバリン)粒剤	収穫7日前まで	1	ジノテフラン（4 A）
	スタークル豆つぶ	収穫7日前まで	1	ジノテフラン（4 A）
	キラップ粒剤※	収穫14日前まで	1	エチプロール（2 B）
	ダントツ粒剤	収穫7日前まで	1	クロチアニジン（4 A）
粉剤	スタークル(アルバリン)粉剤DL	収穫7日前まで	1	ジノテフラン（4 A）
	トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	1	エトフェンプロックス（3 A）
乳剤 水溶剤 フロアブル 剤等	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	収穫7日前まで	1	ジノテフラン（4 A）
	トレボン乳剤	収穫14日前まで	1	エトフェンプロックス（3 A）
	スミチオン乳剤	収穫21日前まで	1	MEP（1 B）
	エクシードフロアブル	収穫7日前まで	1	スルホキサフロル（4 C）

※キラップ粒剤の斑点米カメムシ類に対する散布適期は出穂10日前～出穂期であるので遅れないように注意する。

農薬によっては散布適期が異なることがあるので、ラベルやメーカーホームページなどの資料をよく確認してから使用すること。

イネカメムシについて

イネカメムシは昔はイネの主要害虫だったが、1960年代から農薬の発達とともに発生量が減少し、忘れられた害虫とでも言うべきものだった。

しかし、最近リバイバルし新たな脅威となりつつある。

他の斑点米カメムシより早く出穂直後に越冬地から水田に直接飛来し、開花直後の籾を吸汁することで不稔や斑点米の原因となる。

昨年、関東から西日本にかけてイネカメムシ（写真）による吸汁被害が多発した。

現在のところ大阪府では目立った農業被害は確認されていないものの生息は確認されており、出穂直後の飛来に注意し、必要に応じて**出穂直後の農薬散布**を実施する必要がある。

(1) 被害

水稻の籾の基部を加害することにより、基部斑点米を生じさせる。また、他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂期から登熟初期に籾を加害し、不稔を生じさせる。不稔が生じた稲は、穂が充実せず直立する。

周囲の水稻より出穂が早いほ場の場合は、本種が集中する可能性がある。

(2) 生態

冬は成虫で越冬し、雑草地を經由せず、水稻の出穂とともに越冬場所から水田に侵入してくると考えられている。

昼間は株元に潜み、夜間に加害する加害を行う。本虫は、年1～2世代である。

他の斑点米カメムシ類と異なり、稲への嗜好性が高く、畦畔や水田周辺のイネ科雑草で確認されることが少ない。



イネカメムシ成虫

原図：農林水産省植物防疫所病害虫情報
第127号



アカスジカスミカメ



水田に侵入したホソハリカメムシ

農薬の使い方等斑点米カメムシ防除の相談は最寄りのJAまたは下記まで

名称及び所在地
大阪府北部農と緑の総合事務所 農の普及課 〒567-0034 茨木市中穂積1-3-43 三島府民Cビル内 代表 072-627-1121 FAX 072-623-4321
大阪府中部農と緑の総合事務所 農の普及課 〒581-0005 八尾市荘内町2-1-36 中河内府民Cビル内 代表 072-994-1515 FAX 072-991-8281 (農の普及課)
大阪府南河内農と緑の総合事務所 農の普及課 〒584-0031 富田林市寿町2-6-1 南河内府民Cビル内 代表 0721-25-1131 FAX 0721-25-0425
大阪府泉州農と緑の総合事務所 農の普及課 〒596-0076 岸和田市野田町3-13-2 泉南府民Cビル内 代表 072-439-3601 FAX 072-438-2069



令和6年7月作成

本資料についてのお問い合わせは下記まで

環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ

〒583-0862 羽曳野市尺度442

TEL直通 072-957-0520 / FAX 072-956-8711

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

